日本キリスト教団 東金教会〔１４〕

2019年4月7日復活前第２主日礼拝

年度目標　《キリストに根を下ろして生きる》

聖　句　キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられた通りの信仰をしっかり守って… コロサイ2章7節

【礼拝式次第】

司式	森川
奏楽	中里
受付	三枝
案内	中島
名札係	安延
礼拝感謝祈祷	戸波
〃　〃	猪野

前奏	中里
讃美歌１２	一同
信仰告白	〃
交読文１４	司・会衆
主の祈り５６４	一同
聖書 コロサイ書３：１２～１７	司会者
祈祷	森川
新聖歌３２１	一同
み言葉の伝え	中村征一郎
〈すべてを主イエスの名によって〉	
讃美歌２７４	
聖餐式 配餐者……	井上健
	岡村達彦
祈祷者……	寺内三枝子
	戸波義雄
讃美歌４９４	一同
献金	
礼拝感謝	戸波玲子
〃　〃	猪野君江
報告	森川英男
頌栄５４１	一同
祝祷(派遣)	中村征一郎
後奏 新聖歌５８	聖歌隊

【集会案内】

聖書研究祈祷会 ４月10日(水)午後7:30～
早天祈祷会 月-金7時(除日・祭日)メーヤー館
聖歌練習 本日礼拝後
送迎委員会 本日「聖歌練習」後
聖書輪読会 4月１４日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷会 4月１４日(日)10:25-10:30

【報告】

☆３月の献金報告が出来ております。各自週報棚よりお取り下さい。
☆本日は送迎委員会があります。足立，森川武田の各氏は銀杏ルームに参集下さい。
☆去る3月31日馮　　兄弟が帰天され、4月3日前夜式、4日葬儀と当教会で執り行われました。92才6月の地上での歩みでした。ご遺族の上にお慰めをお祈り致します。
☆ときがね幼稚園は4月8日(月)始業、4月11日(木)は入園式となります。ご加祷下さい。
☆次週は棕櫚の主日です。お覚え下さい。
☆今年のイースター担当は４月１４日の礼拝は中村牧師、２１日のイースター礼拝は朴牧師が講壇を担当です。
☆４月１４日は教会学校進級式です。この１、２年教会学校参加者が減少しております。ご加祷下さい。
☆４月１９日(金)午後7時半、主イエスの十字架を覚える受難日祈祷会を持ちます。お覚えく下さり、祈祷会に出席下さい。尚、水曜日の祈祷会に変更はありません。
☆４月２２日(月)は千葉支区総会日です。ご加祷下さい。
☆イースター献金、克己献金覚えてお捧げ下さい。
☆４月２９日(月)は教会学校春の遠足がございます。ご加祷下さい。

※２０１９年度教会総会日程は５月１９日が教会総会、１２日が総会資料作り、５日が資料提出日です。お覚え下さい。

【分区・支区・教区報告】

○4/22 千葉支区総会 10:00- 於・西千葉
○5/7 東総分区牧師会 10:30- 於・九十九里
○5/28 東京教区総会 10:00- 於・富士見町
※2019年度の東金教会学園理事・評議員会は５月23日(木)に予定しております。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(３/31)	１４	２２	３６
聖研祈祷会(4/3)			
聖書輪読会(3/31)	３	３	６
教会学校(３/31)	９	１３	２２

早天祈祷会			
日	男	女	計
4/1	1	2	3
4/2	1	1	2
4/3	1	1	2
4/4	1	1	2
4/5	1	1	2

主日礼拝献金(３/３１)……４１,４３５円
教会学校献金(３/３１)……８,３２５円

【今日のメッセージ】

題　［すべてを主イエスの名によって］
聖　書　コロサイ書3:１２～１７
1・聖なる者とされ

2・やさしさ

3・主イエスの名によって

【次週(４月１４日)礼拝案内】

題　〈何をしているのか〉
聖　書　ルカ19:35-38　23：34-35
交読文１４
讃美歌１３８番　１３６番
新聖歌１１７番

【次週(４月１４日)礼拝式当番者】

御言葉の伝え…	中村上
司式者…	井村部
奏楽者…	中阿部
受付者…	王
案内者…	
名札当番…	藤田屋
礼拝感謝祈祷…	土田波
〃　〃…	藤部山
ｃｓお話し…	戸部本
会堂清掃者…	岡
〃　〃…	深
花係…	岡
看板書き…	澤

【聖書から】

ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。

ルカ福音書一五章二〇節

〈放蕩息子のたとえ〉は、先の二つのたとえで語られた悔い改めにおける罪人に対する神の不可逆・不可抗・不可欠な関係に次ぎ、罪人に対する神の謙卑・寛容・和解・赦しの関係を物語る。父親の前には、「下の息子」も「兄の方」も父親関係のみならず兄弟関係においても、罪人なのである。着目されるべきは父親の彼らに対する慈愛と行動である。もちろん、先の二つのたとえで語られていなかった、「死んで」「いなくなって」おり、「いつも：一緒にいる」が遠く離れている、父親が息子たちを「見失った」「無くした」関係も詳しく物語られている。掲げられた御言葉は、父なる神の罪人を捜し求め、見つけ、慈愛をもって近づき、受け容れる姿を物語る、主イエスの御言葉である。この天から地という次元を越えた落差への神の下降は理解し難い。旧約聖書、とくに預言書や詩編の中では、イスラエルや詩人のために屈み込む主としてすでに語られてはいたのだが…。

たとえの語り手である主イエスはこの慈愛と行動する父なる神の深遠な御心の具現者である。ヨハネは「肉」の「宿」りを語り、パウロは「神の姿」を語っているが、いずれも主イエスのご生涯、その御言葉、十字架上の死と復活が、神の御心の啓示であることを伝えている。〈四旬節〉は悔い改めの〈期節〉とはいえ、罪人を救う神の「喜び」の「祝宴」も主題とされる。救いの歓喜の第一義的な意味は神の喜びであり、われらはそれを共有させていただく。自生でも自発でもない。二人の息子たちはそれぞれまだ父親の喜びを充分には知らない。神の慈愛と行動のたとえでわれらを物語る主イエスは、救いの祝宴の喜びに招いておられる。祝宴の扉はいまも開かれているのである。

―三月三一日　梅田與四男先生説教―

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。